

会を開始した。この研修会の中では、研修と同時に京大の雑誌総合目録をコンピューターにのせる実験作業を実際に行なう予定である。本館としては将来、雑誌総合目録だけでなく、雑誌管理全般からその他の業務にまでコンピューター化が予想されるので、今後部局側の緊密な協力を得て、十分な調整の上、図書館業務のコンピューターによるシステム化を図りたいと考えている。



農学部・教室図書室 農芸化学雑誌閲覧室

農学部本館2階の西北寄りに2室を占め、大正12年創立以来一貫して外国雑誌充実に重点をおき現在に至った。外国雑誌165種国内雑誌35種、蔵書冊数約13,000でバックナンバーがよく収集され、はじめより開架自由閲覧である。教室創設時は丁度第一次大戦後のドイツ不況時代でバックナンバーを安く購入しどんどん送られたと聞きおよぶ。その伝統が引継がれて第二次大戦中の欠巻購入に苦しい研究費から多大の経費が当てられ、さらに新規発行の雑誌も加えて今日に至った。現在購入誌86種、予算約330万円である。今では2室の60m²スペースに収納しきれず、本館旧書庫等4カ所に別置している。

約5年前ゼロックスを備え付けてから貸出を新着・製本済の別なく“夕方4時より翌朝10時まで”に変更した。昼間は全雑誌が揃っている。(ただし複写のために短時間の例外貸出を認める。)目録は本館のユニットカードを使用、著者・書名目録以外に

Series物Annual, Advance類Symposiumの報告等を別において配列し、所在のわかりにくいものの検索に当てている。閲覧室はドアで仕切られて静寂であり、冷房もあって利用率は非常によい。また他教室・他学部・研究所からの貸出(年間1,300冊)本館複写係の貸出(年間300冊)も多く、半面こちらの教官、学生が他図書室を利用させてもらう件数も増加してきた。

関連分野の新規雑誌が急増し、限られた予算でいかに利用者の希望に応えるか、またその保管の問題特に自然科学系の雑誌の利用頻度が約10年単位で急降下する特徴を考慮に入れてスペースを生かすこと等問題があるが、職員2名で出来るだけ利用者の希望に応えたいと努力している。今後は他図書室との連携をなお一層密にしてゆかねばならないと思っている。



農芸化学雑誌閲覧室

あとがき：おいそがしいところを本号にご寄稿いただいた利用者のかたがたに、紙上をかりて厚くお礼を申し上げます。1学部1名の子定で依頼したのですが、夏休みなどの関係で、本号のしめきりまでに全部は集まらなかったで、もれた学部のもは次号にのせます。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 7, No. 3 (通号36号)1970年9月15日発行・編集発行人：
岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771-8111 (内線)2220~2238